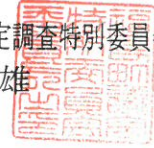


福 議 特 委 号
令和5年11月14日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

第6次福島町総合計画策定調査特別委員会
委員長 平野 隆雄



調査特別委員会中間調査報告書について

令和5年9月14日開催の令和5年度福島町議会定例会9月第2回会議において、本委員会に付託された事件の中間報告書を、福島町議会会議条例第50条第2項の規定により、別紙のとおり報告いたします。

調査特別委員会意見中間報告

調査事件 第6次総合計画策定に関する調査について

令和5年度定例会9月第2回会議において「第6次総合計画策定調査特別委員会」を設置、10月4日に第2回調査特別委員会を開催し中間報告書を提出した。

総合計画を構成する「基本構想」「基本計画」「実施計画」のうち、実施計画について案が示され調査を実施したので、次のとおり中間報告する。

1. 開催状況・調査内容

(1) 第1回目 令和5年9月14日(木)

①正・副委員長の互選

委員長 平野 隆雄、副委員長 藤山 大

②第6次総合計画策定に係る今後のスケジュール等の確認と、意見交換を実施した。

(2) 第2回目 令和5年10月4日(水)

町から提出された第6次総合計画の基本計画案、第5次総合計画基本計画施策評価等の関係資料に基づき、質疑・意見交換を行った。

(3) 第3回目 令和5年11月6日(月)

町から提出された第6次総合計画の実施計画案等の関係資料に基づき、質疑・意見交換を行った。

2. 調査の論点と意見(中間報告)

(1) 目標とする指標の数値・設定の考え方の見直しについて

今回示された基本計画(案)における「目標とする指標の数値・設定の考え方(最終)」については、その数値、考え方について概ね理解したが、以下の点について再度検討されたい。

- ① 1-3 観光業の振興：岩部クルーズ乗船客数の設定数値については、令和4年度の実績を勘案して設定しているが、天候不順等で乗船できなかった人数も入れると予約者数は2千人を超えているとのことであり、設定の考え方としてどう目標値を上げていくかの検討が必要であり、指定管理者制度を導入していることから、企業の意欲を高めるようなインセンティブを考慮し検討する必要があると思慮する。

② **3-3 健康増進と保健・医療の充実**：吉岡温泉の年間利用者数の目標設定は現状維持となっているが、来年度は新たな施設となることから、町外から人を呼び込むことも考慮し検討する必要があると思慮する。

③ **5-1 協働のまちづくりの推進**：コミュニティ活動支援事業数の目標値が現状維持となっているが、実施町内会が固定化されていることが憂慮されるので、町内会連合会等と相談しながら広げて行く方向で検討されたい。

(2) **第5次福島町総合計画実施計画（後期実施計画）の実績について**
特になし

(3) **第6次福島町総合計画実施計画（案）について**
以下の点について、さらに検討を進められたい。

① **I 産業を活性化し、地域資源を活かすまちづくり**

・ **青函トンネル記念館屋外展示物解体撤去事業**

老朽化に伴い撤去・解体予定とのことだが、当時の記録を伝える貴重な物であり、これまでの保管状況を検証し、継続して展示していける方策を検討されたい。

当施設は第2青函トンネル構想実現に向けて情報発信する大きな起点となるので、構想等の展示を充実させ、観光客に対し職員がガイドとして構想の内容等をしっかり説明できるような研修等の体制についても検討されたい。

② **II 次世代を育成し、つながり、学び合うまちづくり**

・ **教育用コンピュータ等整備事業**

現在使用しているタブレット端末は家庭へ持ち帰っての利用が多い状況から破損・紛失等の可能性があるが、その対応について責任の所在がはっきりしていない。機器更新計画の実施にあたっては、その点について整理し対応（賠償保険等）を検討されたい。

・ **福島町青少年交流センターゼロカーボン・モビリティ導入事業**

町が脱炭素を進めるにあたって、具体的な事業として青少年交流センターに太陽光・EV車を導入することについては、関連性が理解しづらく、施設職員の公用のためであればゼロカーボンに拘る必要はないと考えるので、ゼロカーボンに関連した町全体の事業計画の中でバランスを見ながら進めるべきと思慮する。

③ **III 福祉・医療が充実し、互いに認め合えるまちづくり**

特になし

④Ⅳ 生活基盤が安定し、安心安全に暮らせるまちづくり

・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震における津波避難緊急事業

当該事業については冬期間の対策が主になっているが、災害はいつ起こるか予測できないことから、夜間に災害が起こった際の対応、懐中電灯等の備品についても改めて検討されるよう思慮する。

非難場所については、過去に熊による被害があった場所も指定されていることから、新たな場所の選定、有害鳥獣への対策についても検討する必要があると思慮する。

⑤Ⅴ 一人ひとりが協働し、持続可能なまちづくり

特になし

⑥全体意見

実施計画（案）について確認したが、SDGsへの考え方が6月に行った調査から後退していると感じる。町民に対しSDGsへの理解が進むよう建てて書き込むなどPRの方法について検討されたい。

政策等調書・総合計画事業進行管理表については、以前から指標等の設定がなじまない事業等が見受けられることから内容の見直し等が必要と指摘しており、様式の簡略化も含めて第6次総合計画の策定に合わせて行うとしていたが、今回の資料を見ても見直しはされていない。計画を策定している今がチャンスだったことを考えると非常に残念であり、今後、さらに人口減少が想定されることから、事務全般について省力化することは、必須の課題でもあり、引き続き見直しに向けた検討を積極的に進められたい。

政策等調書（活動指標：「説明」・「目標設定の考え方」）の記載内容に統一性がなく適切でない点が多々あることと、過去の会議等での答弁で6次計に載せるとしていた事業が、検討から漏れ掲載されていないことを指摘しておく。

（4）総括

今回で総合計画を構成する「基本構想（案）」「基本計画（案）」「実施計画（案）」を調査したことになるが、これまで指摘した事項に加え、新たに出された意見等もあり、その対応についても確認する必要があることから、当事件については継続審議とする。

以上、本特別委員会の中間報告とする。